

編集後記

前の大阪万博、と聞けば昔好きだった(とある天皇を思わせる名の)バンドが1970年代を歌ったアルバムを思い出します。人類の進歩と調和の理念で始まったその10年は楽なものではなかったけれど、右肩上がりの希望が確かにありました。55年が過ぎ去り、世を動かす原動力のようなものを再び世界のどこかに見出だせればと願いつつ、想い新たに。

(編集委員 關根 さおり)

鹿児島ユナイテッドFCにとってJ2残留に向けては勝利が絶対条件だったV・ファーレン長崎との一戦を長崎の新スタジアムで観戦しました。試合に負けJ3降格が現実のものとなってしまった瞬間を目の当たりにしましたが、スタジアムの素晴らしさに感動しました。近い将来、鹿児島にも人が集う鹿児島らしいスタジアムが誕生してくれることを切に願います。2025年はJ3リーグ優勝⇒1年での振り返りに期待!

(編集委員 今村 直人)

4月に大阪・関西万博「EXPO2025」が開催されます。「万博」と言えば個人的には、あのテーマソングと太陽の塔に象徴される「EXPO'70」です。高度経済成長真っ只中の時代、親戚と行った小学4年夏の良き思い出です。あれから55年。今回のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に倣って自身も心と体のメンテナンスに勤しもうと思います。

(編集委員 森岡 康祐)

7月は参議院選挙があります。政権選択選挙ではありませんが、選挙に向けて少数与党にも色々な事があるかもしれません。今月からアメリカ大統領もトランプに交代し、世界の様相も変化していく中、今年は大変革の年になるかと思いますが、平穏で皆様方が安心して暮せる年になる様に節に願いたいと思います。今年も何事も楽しんで頑張っていきたいと思います。

(編集委員 角 純啓)

今年の干支は「乙巳(きのと・み)」。「乙」は植物が種子の殻を突き破り芽を出す様を、「巳」は蛇が脱皮を繰り返して成長する様から「復活と再生」の象徴とされ、七福神の1人である蓄財・芸能の女神「弁財天」も蛇の型をした神として祀られています。低迷する日本経済と医療情勢、古い皮を脱ぎ捨てて“巳(実)を結ぶ”年になることを願います。

(編集委員 寺口 博幸)

父が3月に亡くなり、喪中の正月です。喪中葉書を出し、年越し蕎麦は食べますが、正月飾りは控えました。おせち料理の海老、鯛、紅白のかまぼこ等お祝いの食材を避けた「ふせち料理」を妻に準備してもらい、父を偲びながら過ごします。新年の挨拶も「おめでとうございます」は避けて「新年となりましたが今年もよろしく願い致します」にしようと考えています。

(編集委員 島田 辰彦)

昨年のジェンダーギャップ指数は、世界の中で日本は118位、全国での鹿児島県は36位でした。昨年は鹿児島県で女性県議会議員が増え少し順位が上がりましたが、依然として低い状況です。女性の活躍は社会に大きなメリットをもたらす、女性管理職の増加は働きやすさにもつながります。そのためにも、性別問わず心理的安全性を保ちながら意見を言える環境に変化していく年になっていくことを祈ります。

(副編集委員長 ウェレット 朋代)

「鏡の法則：今を大切に生きる」

2024年は国内・外で様々な出来事が生じました。医療界でも診療報酬のtriple改定、人件費・物価上昇、医師の働き方改革、人材不足等大きな課題がありました。DXはこれらの課題をそれぞれ解決していく手段の一つです。鹿児島市医報は出来る限りの情報を正確・迅速に提供していきたいと考えます。医療人にとりまして、安全・安心な医療を提供することが大きな目標であることに変わりはありません。会員の皆様にとりまして今年が素晴らしい1年となりますことを祈念いたしております。

(編集委員長 帆北 修一)